

# 今月の 我がマチの 一番星☆



コーラス・ドルチェ第20回定期発表会で指揮を執る  
實吉さん(10月25日、遠浅公民館)



實吉智子さん

## 音楽をとおして 交流と人づくり

實吉智子さんは、白老町にある北海道栄高校の教員として生徒に音楽を教えていた時に社会教育主事の資格を取得し、昭和55年に派遣社会教育主事として穂別町(現むかわ町)に赴任した後、洞爺少年自然の家や日高教育局で生涯教育の振興に尽力し、穂別の仁和中学校の教頭として学校現場に戻り、早来小学校では2年間校長として在職していました。

コーラス・ドルチェ(旧遠浅合唱団)と関わって8年になり、「コンサートinはやきた」の企画を立ち上げそれから毎年続けており、メンバーの方によると「先生が来てから合唱のレベルが大きく向上した」と言います。昨年、苫小牧市で開催されたベートーベンの「第9」の合

唱にメンバーが参加され、ドイツ語で歌われたそうです。實吉さんは「目的のない10回の練習より演奏会に1回参加するほうが上達は早い。人は目標に向かって努力するからです。」と力説。さらに「できるだけ暗譜を心掛けています。楽譜を見ないほうが指揮

者に注目し、お互いの声を聴き合うようになり、技術も向上します」と指導方法を解説。そして「合唱の継続は横のつながりとともに家族の協力も必要です」と話していました。会員がお互いの発声について話し合うことで連帯感が強まり、また練習に出席できない

人は録音したテープを聞いて勉強するなど、夫の理解を得ながら、積極的に合唱に取り組んでいるそうです。現在、むかわ町でも指導している實吉さんは音楽をとおして相互に交流を深め、人との関わりを大切にしていきたいと夢を描いています。

## コーラスに関わって20年



佐藤一恵さん

「指導している先生が体調を崩したので手伝っていただけませんか」と頼まれてコーラスとの関わりを持つことになった佐藤一恵さん。週1回の練習で、教えていた方が復帰するまでということなので気軽に引き受けたそうですが、「結成して40年近いおいわけひまわりコーラスですが、20年も団員の皆さんと合唱をとおしてお付き合いをさせていただいた」と改めて驚いていました。佐藤さんは遠浅小学校の教員時代も指導を続けており、「目立たないですが、ピアノ奏者の存在は大きい」と言い、この20年で7人もの人が変わり、近隣市町に住む方に協力を頼んだこともあるそうです。

## 団員の皆さんにマッチした曲選び

「年齢が高くなると声量や体力に影響が出るのは仕方ありません。難しい曲を練習することも大切ですが、誰でも歌えるものも取り入れるようにしています」と選曲について語り、「唱歌や童謡が団員の方には意外とマッチしていたようです」といいます。

全道各都市で開催された大会に出場したことも団員に変化をもたらし、カラフルな衣装に魅せられ自分たちに似合うコスチュームを作成。聴いてもらう、見てもらうことが刺激となり意欲的に歌う姿勢になり、「教えていた私が一番教えられました」と回想し、指導して20年の記念に企画してくれたミニコンサートは団員からのプレゼントでした。



おいわけひまわりコーラス  
ミニコンサート(10月11日)

現在、苫小牧の合唱団に加盟し発表の機会が増え、さらに団員の皆さんと楽しく活動できる環境を目指したいと話していました。